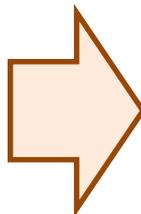


課題

大雪山国立公園は、
人工的建造物の極めて少ない
原生的な自然景観が魅力



しかし、



常設トイレがない避難小屋、
野営地周辺でし尿が散乱



景観悪化
不快感



踏みつけによる
高山植物減少、土壌流出

国立公園の魅力の低下
湧水を活用した地元市町の取組への影響懸念

携帯トイレの普及による山岳環境の改善が必要

※原生的で人工的建造物の極めて少ない大雪山国立公園の魅力を維持するには、し尿散乱問題を大規模な施設整備によって解決するのではなく、携帯トイレの活用によって解決することが必要。



携帯トイレ

携帯トイレブース
(テント型)

携帯トイレブース内部

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を发出

宣言時期: 6月末～7月初旬を予定

宣言主体: 大雪山国立公園連絡協議会 (※)
+ 山岳関係団体

(※) 環境省、北海道、大雪山国立公園関係10市町で構成

＜普及宣言の主な内容(予定)＞

1. 大雪山国立公園では、携帯トイレを適切に使用することで雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。
2. 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。
3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。
4. 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の周知と、携帯トイレのより一層の普及のため、
シンボルマークを募集